



光前寺へ通じた橋の跡

⑩ 太田切川橋場礎石 駒ヶ根市

丸みを帯びた巨石は太田切川のほぼ真ん中にあつた。流れが強く、近寄れなかつたが、上部にくぼみがあるのは堤防の上からも確認できた。

太田切川は荒れ川で、礎石は砂れきに埋まっていたという。駒ヶ根市立博物館が1973年に発行した「駒ヶ根の史蹟と文化財」

伊那谷遺産 第2部

によると、発見は67年。堰堤工事中のことで、橋場跡と呼ばれていた場所の河床下約1メートルのところから見つかった。

高さ3メートル、横4〜5メートルの花こう岩。石の上部表面には直径35センチ、深さ13センチの柱穴があり、かつては「はね橋」の橋脚が座っていた。同市在住の民俗研究家、塩

澤一郎さんは「大水が出る」と流れてしまう橋だったが、地域の人だけでなく、光前寺も修理費を負担していたのをみても、光前寺へ

の道として使われていたのだろう」と推測する。

渡河地点近くの駒ヶ根市側、宮田村側には、それぞれ歴史上の遺構を示す「春日街道橋場跡」の石碑があつた。(文・倉田高志、絵・片桐美登)

毎週火曜日掲載



QRコードから
事務HPへ
アクセス

平成26年3月25日掲載
長野日報 / 1面